

【インタビュー・シリーズ 夢プロジェクト】

# 世界に発信する アーティストたち

No.3

## 中本智絵

Chie NAKAMOTO



パリを拠点に日本画を制作し、世界に向けて発表する中本智絵  
東洋的な深い精神性を秘めた絵画の魅力を問う

日本国内で着実に画家としての実績を挙げて活動を行ってきた日本画家・中本智絵は2009年のベルリンから海外に制作拠点を移した。現在は、パリで生活し制作を行っている。恵まれた日本国内の環境ではなく、孤独で不自由でも自由のある空間で、自らの世界を構築し、絵画制作に打ち込んでいる。もちろん作品発表の視点も広く海外に向けられている。精神性の深い日本画であるが故に、むしろ国際的な強みがあるのだと言う……。

——日本国内で一定の評価を得て、順調に画家としての歩みを進めてきた後、海外に拠点を移したのはどんな理由からなんですか。

中本 外の世界を見てみたかった。もっと広い世界を見てみたかったというのが大きいですね。日本は恵まれていて、何でもありませんよね。自分に対しても画家として対応してくれる人がいる。すべてが揃いすぎていて、すごく気持ちが窮屈になってしまふ。ところが向こうにいたら、私は何者でもなく、ただの日本から来た一個人で、未だに小さい少女の扱いをされたりして悔しいことも多いですけど、やっぱり自由なんです。ポンとした広い空間に置かれて「好きにして」と言われたように、孤独は大きくてもやっぱり自由です。

——その自由というのは制作上も大きな意味がありますか。中本 外国に比べると、自分の中のストッパーが外せたというのがありますね。

——創作上の自由な発想は作家

として重要なことですね。その外国の最初にベルリンを選んだのはどうしてですか。

中本 ベルリンの今のアートが見てみたいというので、実際に行ったというのがきっかけです。しかし、環境自体はすごくよかったです。ベルリンでやっているアートは、自分が好きなモノとちよつと違うなど。人間関係は充実していたんですけど。

——それで帰国後またすぐパリに行ったわけですね。

中本 制作を含めて生活の、自分のライフスタイルの基本は海外においておきたいと考えています。

——パリはベルリンとは違いましたか。

中本 テンションが上がる、私はそう思いますね。

——作家としてのテンションを高め制作活動を続け、海外から広く世界に作品を展開していくというのが、現在の夢、計画なんすね。

中本 海外である程度できるようになりたいというのが、それ



《雨あがり》F8

### 玉 際アートフェアなど 海外のスペースで、広く作品を 見せていきたい

会期は何日間あるので、自分の絵の見え方がどう変化していくのかということを見たいと思っています。怖いけど、すごく楽しみです。

——国際的な作品比較の場にもなりますね。

中本 自分が凄いと思える人たち、亡くなった後も今も作品が評価されている作家たちの中に、自分の作品が置かれた時、自分の小ささが分かりますね。また現代生きていて凄く評価されている作家さんの中にも、この人たちが今スポットを浴びているのが分かるというものがあります。そういう時、自分に足りないものは、何だろうと。そうすると自分自身の課題ができます。そして、その階段をどう上って行けるのが楽しみになってきます。その課題は大きい方が悔しさも大きいですが、楽しみでもあります。

——積極的な取り組み方ですね。ところで自分自身の作品の特徴はどういうものだと考えていますか。

——9月に韓国のアートフェアKIAFと、アートモスクワのふたつのフェアに出品するという忙しい予定になっていますね。着実に国際的な展開が進んでいる……。

中本 モスクワのアートフェアには本当に出したかった。ア

ートフェアの各展示ブースを見て、他の作家はどうなのか、今どういう流れになっているのかというところを吸収したい。刺激になるんじゃないのかなと思います。またそこで自分の作品がどう飾られているのか、どう見えるのかということに関心があります。



《Wishing glasses》F40

● KIAF (韓国アートフェア)  
<http://kiaf.org/2011new/Eng/main.html>  
 前夜祭：9月12日(水)  
 会期：9月13日～17日(月)  
 場所：ソウル COEX 1階 / ホール A & B

● Art Moscow (ロシアアートフェア)  
<http://www.art-moscow.ru/en/>  
 前夜祭(予定)：9月18日(火)  
 会期：9月19日～23日(日)  
 場所：Central House of Artists, 10 Krymsky モスクワ

● 月からのおくりもの 中本智絵展  
 会期：10月31日(水)～11月6日(火)  
 最終日は午後4時まで  
 場所：岡山天満屋5階美術画廊



《Journey》F20

きさということではなく、精神性の深さということが大切だと思います。当時、仏画を描いていた人はそこに自分を出しているのではなく、祈りとか、仏教なのでそれを取り込んで表現しているわけです。だから観る人も、その絵に沁み込んでいけるのだと思います。

——中本さんの作品も、観る人がその作品の世界に入り込んで

いくような絵画ですよね。中本 作品のテーマというか、物語のその世界に観る方が入ってもらって、いつの間にかその絵が持つ人に染まっちゃうような、離したくないという気持ちになってもえれば、いいなと思っています。

——とかく一瞬のインパクトの強さが競われるようなアートフェアで、そうした絵画の魅力

が伝えたいものですね。これから10年20年後という作家になつていきたい? とお考えですか。

中本 今また走り出している感じなので、これから海外にも発表していくという展開を考えると、また、上って行かなくてはと考えています。

——大きな展望に向かっていて、これからの活動を期待しています。

略歴

1976年 京都府生まれ  
 2004年 東京藝術大学大学院保存修復日本画修士課程修了  
 2007年 東京藝術大学大学院保存修復日本画博士課程修了  
 博士号博美 202号取得  
 論文「聖衆来迎寺伝来十六羅漢圖に於ける裏彩色の研究」

〈個展・出品〉

2006年 二人展「いのり」  
 2008年 個展「夢走」  
 個展「楽隊」  
 2009年 個展「空」(東京美術倶楽部アートフェア)  
 渡独  
 2010年 第10回21世紀展出品「ミレと私」  
 個展「中本智絵 日本画展」  
 滞在許可証「COMPETENCES ET TALENTS (能力・才能)」画家として取得 渡仏 パリ  
 2011年 第11回21世紀展出品「次の駅はパラダイス」  
 個展「中本智絵 日本画展」  
 個展「エトランゼ 中本智絵展」  
 2012年 個展「月からのおくりもの 中本智絵 日本画展」  
 現在 パリ在住  
 〈受賞〉  
 2003年 平山郁夫奨学金賞受賞  
 2004年 日本更正保護女性連盟会長賞受賞 第89回院展 奨励賞受賞  
 2005年 第90回院展 奨励賞受賞  
 2007年 卒業制作 野村賞受賞 第62回春の院展 奨励賞受賞  
 第92回院展 奨励賞受賞  
 第93回院展 奨励賞受賞  
 〈作品収蔵〉  
 「暮らしの手帳」(今井美術館・島根県)、「音の羽」(足立美術館・島根県)「襟」(足立美術館・島根県)、「みずざり」(足立美術館・島根県)、東京国立博物館国宝「十六羅漢図第十四尊者」復元模写(東京藝術大学美術館)、「ターミナル」(足立美術館・島根県)、「夢の箱」(河口湖北原おもちゃミュージアム)

中本 自分のスタイルとして、歩いていて作品の前でパツと立ち止まるものではなくて、一度フーッと通り過ぎるけど、また戻ってきて見て、距離を縮めて前へ進んで作品を見る。私の作品は多分そういう感じなんです。これは、仏画の模写をしたのが凄く大きく影響しています。仏画は地味です。模写をして、仏画に内包されている精神性の深さってなんだろうと思うと、その作品が大好きになった。技法的なこともすべて含めて深さがあって、それが色に出てくる。

——仏画、日本画から学んだ精神性が強みだということですね。中本 自分が海外に向けてのひとつの武器は、日本人であるということが大きいと思っています。東洋人のDNAに組み込まれている色とかそういうものを、世界に出た時に、インパクトの大